



常識を破る

Break Through

かつてアインシュタインは言った。「常識とは、18歳までに身につけた偏見のコレクションでしかない」と。自坊でのこと、お墓参りのシーズンになるとよくあることに、先祖のお墓が分からなくなった。場所を教えてほしい、と来寺される。特にお盆の前後には、このようなお墓探しが多発する。寺僧はそのつど墓地案内をすることになる。感謝されての帰り道、頭をよぎる。(自分の両親が眠っているお墓の場所ぐらい、ちゃんと覚えておくのが常識だろう！)。

だがそれは寺僧の常識でしかない。4千基もある広大な墓地は、寺僧にとっては小さい時からの遊び場。しかし年に1回ぐらいしか墓参をしない人にとっては、道に迷うのが当たり前のこと(その方の常識)であろう。

ベートーベン『第九』の誕生

時は1770年、ベートーベンドイツの宮廷音楽家の家に生まれる。ところが彼が飛び込んだ宮廷音楽の世界は、息の詰まるような世界であった。当時の音楽家は、王侯貴族の命じるままに作曲し演奏するのが仕事。身分も低く、料理人や庭師らと同じように召し使いとして扱われていた。

なぜ音楽家は王侯貴族の言いなりに生きねばならないのか。ベートーベンの胸に湧き上がった疑問は、日に日に膨れ上がった。まさにそんな時、彼の人生を大きく変える大事件が起きる。1789年のフランス革命である。ベートーベン18歳のときであった。

すべての人は自由で平等であるべき。国も社会も富も、貧しい人々の手に戻すのだ。フランス革命の理念は、宮廷音楽家としての未来に疑問を抱いていたベートーベンの心を熱く揺さぶった。



貴族のためではなく、市民のために音楽をつくる、ベートーベンは決意する。世界はこうあるべきだ。その思いを伝えるために彼が目にしたのは、ドイツの詩人・シラーの詩『歓喜に寄せて』だった。それまで楽器のみでの演奏が常識だった交響曲に、コーラス(合唱)を取り入れてはどうか! ----- 交響曲第九番の誕生である。

自由の力が身分や階級の差をなくす。この理念が全世界に広がってほしい!

当時の常識を破って誕生した革命的な『第九』は、毎年12月にはクリスマスソングと並んで聴こえてくる風物詩として、世界中で演奏されている。



ヤマザキマリ

<事例 DVD等>

ベートーベン/第九誕生までのプロセス、音楽の常識を破る映画「敬愛なるベートーベン」難聴だからこそ聞こえるもの
ヤマザキマリ/最後の講義より、自由に生きる覚悟
『テルマエ・ロマエ』累計発行部数900万部
精神科医・和田秀樹語る、常識を破る考え、徹子の部屋より
詩・星空スカット「君だけを」常識を破る異色な音楽グループ

円了のホームページ: www.enryo.jp